

社会科における価値学習の検討

—生徒の認識内容の把握を通して—

A study of value learning in social studies

— Through grasping student's recognition content —

大杉昭英 (教職員支援機構), 須本良夫 (岐阜大学), 橋本康弘 (福井大学)

中原朋生 (川崎医療短期大学), 田中 伸 (岐阜大学)

1. はじめに

(1) 問題の所在

本研究の目的は、価値多元社会と呼ばれる現代において、社会系教科(社会科, 公民科を指す)における価値学習の課題と改革の方向性を探ることである。

価値判断を伴う学習についての研究を進めるに当たって参考にしたのは法曹界である。そこでの価値判断は、裁判官が行う判決を一つの典型例としている。その構造は、[事実] → [価値判断基準となる法規] → [決定(判決)]となる。そこで本研究では、この構造の中核となっている「価値判断基準」に注目し、社会系教科目において扱う「価値判断基準」の内容を明らかにしたいと考えた。一般に、社会的な問題が起きたとき、解決のための価値判断基準を提供するのが倫理的価値であり、その代表が「法」と「道徳」である。これまで社会系教科目では主に「法」を取り上げ、個人の尊重など憲法の基本原則となっている法的価値について指導してきた。そして、道徳の時間で人が善く生きるための道徳的価値を指導してきた。しかし、今日、ごみ処理場はどこに建設すべきか、消費税を上げるべきか、脳死を認めるかなど、社会生活上、様々な問題が起こっており、それらは法的価値と道徳的価値だけでは判断できない問題である。そのため、この二つの間に第三の判断基準を想定する必要がある(図1)と考えた。



図1 新たな基準の位置づけ

この第三の判断基準については、「社会倫理」

がそれに相応しいという前提で研究を進めてきた。その「社会倫理」の中には、「功利主義」「自由至上主義」「社会契約主義」「共同体主義」という四つの価値判断基準の枠組みがあることを手掛かりに検討した。

さらに、法曹界では、先に示した判決の構造は形式的・論理的に引き出されたものであるため、判断の心理的プロセスを分析する必要があると指摘されている点にも注目した。社会系教科においても、実際に児童生徒が価値判断を行う際に、判断基準をどのように学び、活用してゆくのか、その心理的プロセスについて検討する必要があると考えた。そこで、本研究でも、社会系教科目において児童生徒が発達段階に即してどのような価値概念を習得し、それを活用してどのような判断を行うのか、その心理メカニズムとプロセスを解明することにした。

(2) 研究の方途

具体的には、小学校、中学校、高等学校、大学という異校種の児童生徒、学生に対し、価値判断を行う同一授業(同じ題材, 発問, 資料)を実施する。そして、授業後に児童生徒、学生はそれぞれどのような基準によってどのような判断を行ったのか、また、その基準はどのように形成されてきたのかをインタビュー調査を行い、それを分析する方法を取った。

なお、この研究は平成2015年から3年間継続的に行ってきた。2015年は授業を委託した教師自身が開発した授業(価値判断を行うもの)を実施し、授業後に児童生徒にインタビュー調査を行い、その結果を分析してきた。しかし、異校種の児童生徒、学生の価値判断を比較し、その特長を見いだすためには限界があったため、2016年より本研究グループが開発した教材・指

導計画に基づいて授業を実施し、同様のインタビュー調査・分析を行ってきた。さらに、本年度(2017年)については、教師の指導歴(小・中・高等学校)と大学生の学習歴を把握することで、その影響についても分析することにした。

2. 価値判断を行う授業構想

(1) 価値判断を行う授業の基本コンセプト

- ・個人の生き方を越えた社会の在り方を問うもの。
- ・資源配分の在り方(政策判断の根拠)を問うもの
- ・人類が蓄積した複数の倫理的判断基準を含み持つ事例を題材にする。
- ・倫理的判断基準については、背景にある伝統、文化、社会の有り様が異なるため、判断基準には定まった正解はなく、関係者それぞれの合意によって判断基準が形成される。

(2) 具体的な授業の流れ

授業は、「思考実験」として砂漠で遭難した人たちが最後の水を誰に分配するか考察した後、人類が経験した新型ウイルスによるパンデミックを取り上げ、ワクチンを誰から接種すればよいか考察させるようにした。具体的には、次の

- ① 砂漠で遭難した9人を思考実験的に取り上げ、救援の可能性等を考慮しながら、どのような人に最後に残った水をあげるのが善いか判断させる。
- ② 人類が経験した新型インフルエンザの爆発的な感染＝パンデミックの事例であるスペイン風邪、アジア風邪、香港風邪の被害状況とその発生メカニズムをDVDで視聴させる。
- ③ パンデミックの有効な対応策はワクチン接種であるが、すぐには製造できないためワクチン(医療資源)の配分順を決めなければならないことをDVDで視聴させる。
- ④ 児童生徒にワクチン(医療資源)をどのような人たちから接種すべきか、その順番を決定させるとともに、グループで議論させ、改めて自分自身の判断基準を内省・吟味させる。

①から④のように展開である。

本年度(2017年)は従前のパンデミック授業の前に、「思考実験」的な価値判断を行う新たな授業計画を作成し実施した。

「思考実験」の内容は次のようになる。砂漠で遭難した9人がいる。その内訳は、「長時間早く走れる3人」「走るのは遅いが体力のある3人」「長い間この9人の集団につくしてきたが現在ケガをして歩けず力つきそうな3人」である。この9人が何日も歩き続け、やっと木陰を見つけて休んでいた。そのとき、頼みの飲み水があとコップ3杯(3人分)しか残っていないことが分かり、最後に誰に飲ますか決めなければならなくなった。このような問題場面を設定し、誰に水を飲ますのが最善か児童生徒に判断させるのである。

砂漠で遭難 最後に残った水を誰にあげるか?
(状況)

何日も歩き続け、やっと休む場所を見つけ、最後の水をどう分けるか話し合った。

9人全員に分けると、十分な量ではなく体力回復できない。3人に分けると、その3人は1日ぐらい元気になる。

コップ3杯の水を誰にあげるか

3人のとくちょう	コップの水を飲むことで生まれる効果
長時間早く走れる3人	成功するかどうか分からないが、どこか人がいるところを早くさがして全員を救助してもらえるかもしれない。
走るの遅いが体力がありケガをした3人を背負ってきた3人	もう少しケガをした3人を背負っていくことができるかもしれない。
長い間この集団につくしてきたがケガをして力つきそうな3人	ケガをした3人が力つきののをばすことができるかもしれない。

これは、ナンシー・カートライトの『いかにして物理法則は嘘をつくか』の着想に基づいて、現実の状況のうち重要部分だけを取り出して考える思考実験によって資源配分の正しさを検討させようとした。すなわち、砂漠において貴重な水(資源)を誰に飲ませればよいか(＝配分)を判断させ、その判断の根拠(より多くの人を助けることが善である、最も困っている人を助けることが正しい、共同体に貢献した人に報いることが善など)を明確化して考察させる学習

場面を設定することにした。

3 授業の事実

(1) 授業計画 (小学校の場合)

	教授活動	学習活動
第一次 45分	<p>○パワーポイントを見せながら、今日は「砂漠で遭難したときに、最後の水を誰にあげるか？」という問題について考えることを伝える。(2分)</p> <p>○最後のコップ3杯の水を「長時間早く走れる3人」「走るのは遅いが体力がありケガをした3人を背負ってきた3人」「長い間この集団につくしてきたがケガをして力つきそうな3人」のうち、どの3人にあげるか、またパワーポイントで示した「コップの水を飲むことで生まれる効果」を参考に理由考えさせる。(5分)</p> <p>○水をあげる理由を考えさせ、ワークシートに記入させる。(3分)</p> <p>○ビデオ視聴「パンデミック」(17分)。</p> <p>○パンデミックとは何か、また、発生メカニズムについてDVDを基に説明し理解させる。(5分)</p> <p>○新型コロナウイルスによるパンデミックへの対応としてワクチンの開発と接種があることを説明し理解させる。(5分)</p> <p>○アメリカではワクチン接種を優先的に接種する順番があることを伝える。(3分)</p> <p>○希少な医療資源(ワクチン)は全員分をすぐには開発できないので、できたワクチンから順番に接種することになる。そこで誰から配分するか、その順番の妥当性、正当性を考えることが大切であると伝える。(3分)</p> <p>○次の時間は自分達で接種の順番を決め、なぜその順番が正しいのか(良いのか)考えることを伝える。(2分)</p>	<p>○「砂漠で遭難したときに、最後の水を誰にあげるか？」という問題を考えることを理解する。</p> <p>○最後のコップ3杯の水をどの3人にあげるか、またその理由をパワーポイントで示された「コップの水を飲むことで生まれる効果」を参考に考える。</p> <p>○水をあげる3人と、その理由をワークシートに記入する。</p> <p>○DVDを視聴し、メモを取る。</p> <p>○パンデミックとその発生メカニズムについて理解する。</p> <p>○パンデミックへの対応方法について、ワクチンを開発と接種により予防や病状が緩和されることを理解する。</p> <p>○ワクチン接種(ワクチン注射)に順番があることを理解する。</p> <p>○少ないワクチンを誰から接種するか考えることは、医療資源の配分と、配分の正当性・妥当性を考えることだと理解する。</p> <p>○追究テーマは何か、確認する。 (順番の正当性・妥当性の検討)</p>
第二次 45分	<p>○前時のDVD「パンデミック」の内容を確認しワクチンを誰から接種するか、またその理由を考えさせ、ワークシートに記入させる(10分)。</p> <p>○4～5名のグループを作り、ワークシートに記入した内容を基に議論させる。そして、グループとしての結論を出させる。その際、ワクチン接種の順番を決めると、それに全ての人が従わなければならないため、順番を決めた理由の正しさ(良さ)が重要だと伝える(15分)。</p> <p>○グループでジャンケンし、負けた1人を他のグループにそれぞれ移動させ、前のグループの結論(順番と理由、その正しさ)を伝えさせる。その際、敢えて伝えられた内容に反論させて、違う視点があることに気付かせながら議論させる。その上で改めてグループで議論し、結論(順番と理由、その正しさ)を出させる(10分)。</p> <p>○グループの代表者に結論(順番と理由、その正しさ)を発表させ、その正当性・妥当性を考えさせる。そして、一人一人に最終的な結論を出させ、ワークシートの内容を完成させる(10分)。</p>	<p>○DVD「パンデミック」の内容を基に、誰から接種するか、また、その理由を考えワークシートに記入する。</p> <p>○グループでワクチンの接種順と、その理由を話し合う。その際、決定した順番は自分を含め家族や知り合いなど全ての人が従わなければならないこと、それゆえ、順番を決めた理由の正しさ(良さ)が重要だと理解する。</p> <p>○移動してきた生徒の結論(順番と理由、その正しさ)について反論したり、同意したりして議論を深める。そして、改めてグループで議論し、結論(順番と理由、その正しさ)を出す。</p> <p>○グループの結論を代表者が発表する。最後に一人一人に自分の結論の正当性・妥当性を吟味させ、ワークシートを修正させ、完成させる。</p>

*中・高等学校及び大学で実施する場合は、グループの議論や発表の時間を増やす。

表1 授業者の該当クラスに対する指導状況

	小	中	高校
多くの人が幸せになることが善いことだという考え方を授業や日常の指導でこれまで取り上げましたか	いくらか取り上げた	いくらか取り上げた	いくらか取り上げた
Q1で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で取り上げましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。	社会科	社会科	現代社会
少数であっても最も困っている人の状況を良くすることが正しいことだという考え方を授業や日常の指導で取り上げたことがありますか	いくらか取り上げた	いくらか取り上げた	いくらか取り上げた
Q3で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で取り上げましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。	社会科	社会科	現代社会
社会や集団に貢献してきた人を大切にすることが善いことだという考え方を授業や日常の指導で取り上げたことがありますか	取り上げていない	取り上げていない	取り上げていない
Q5で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で取り上げましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。	—	—	—
多数決のよさについて指導していましたか	指導していません	いくらか指導した	いくらか指導した
Q7で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で取り上げましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。	—	社会科	社会科
多数決でものごとを決定させる機会を設けることがこれまでありましたか	結構あった	結構あった	なかった
Q9で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で多数決を行わせた機会がありましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。	特別活動	特別活動	—

※表1の授業者の指導状況との兼ね合いは各校種の分析において述べていく。

(2) 価値判断プロセス・判断基準に関する分析結果ⁱ

① 小学校の場合

(a) 指導歴のポイント

小学校の場合、学級担任として社会科授業以外にも多くの授業を受け持つという特性が加味されてくる。例えば、特別活動や日々の給食や掃除の当番などの係活動、道徳の授業など児童と接する時間も多く、学級担任の指導性が児童の考え方へ潜在的な意味づけを与える影響の多さは否定できない。

今回の調査した小学校指導者の学校は、多くの教科で教科担任制をとっている学校である。そのため、公立の小学校より、指導者の影響は中学校と同じようなスタンスと解釈することもできるが、それでも中学校よりは児童との関わる時間は多いのは否めない。

その中で特徴的なのは、Q3：少数であっても最も困っている人の状況を良くすることが正しいことだという考え方を授業や日常の指導で取り上げたことがありますか。という問いかけには関するものである。中学校以上の教諭の回答には、社会科で指導がなされているが、小学校の指導では道徳で指導をされたと回答がされている。

また、多数決の意義についての指導はなされていないが、多数決で決めるということはよく行われている。つまり、先に記した通り教科指導以外の時間を児童と共に過ごす小学校の実態があり、児童も学校ではなんらかの決定は多数決で決めるという指導が日常的に行われることが多い実態があることが分か

(b) 判断基準はどのようなものだったか。

聞き取り調査の実施人数は、31名中希望者のみ9名(男子3名 女子6名)である。

小学生の場合、3つのグループの分類については、必ずしも判断基準を明確にした後に、それに適合する人物を想定して考えてはいない回答が多い。こうした回答をする児童の多くは、だれから助けたいかという個別な人の順位付けに終始している傾向がみられる。それがどのような集団になっているか、理由をあと付けている状況もうかがえた。

一方で、ワークシートへの書き込みではそうした状況で判別が難しいものも見られたが、聞き取りになるとその基準は整理し回答がなされている。

多くの人を救いたい(功利主義)	…5名
日本にとっての需要さ	…2名
未来につながる人材かどうか	…2名

ここからわかることは、ワークシーの段階では順位は混とんとしつつも、小学生なりにみんなの命をたくさん救うにはどうするかという基準が根底に流れ、功利主義的な考えが多いことがわかる。

この結果の出現に、教師の指導歴や指導性、あるいは道徳の影響がどこまで影響を及ぼしているかという点は不明である。

(d) 社会科は判断基準形成にどのように関係しているか

小学生の段階において、価値判断をするときには、授業で学習した内容よりも、既存の情報である本やテレビのニュース、或いはおじいちゃんがなくなった時というような過去の印象深い経験を重視して判断基準を作る傾向が強いことが伺える。

頭では授業内容を理解したとしても、その活用はすぐにはできないということが言える。

(e) 判断基準はクラスメートに影響されて議論の中で変化するか

授業内での意見交流で、自分と異なる考えの意見を聞いて左右されたかという問い替えにたいして、9名中1名の児童が納得したので考えが変わったと答えた。

一方で、納得できるものはなかったという考えの子はいなかった。残り8名は、自分の意見と異なるので納得はできないけれど、他者の意見についてなるほどとそれなりの理解は示している。その理解が示された意見として、最初、功利主義的な基準を用いていた子が、日本にとっての政府要人の重要性を挙げている(2名)。また、判断基準には直接関係ない意見(若い人はかかりやすい、赤ちゃんが死んでもまた妊娠できるなど)考えの構築の中で、自分が情報から漏らしていた個別な情報について、納得をしてい

る例が多く見られた。

しかし、こうした情報が盛り込まれたとしても、小学生の場合は最初の自分の考えに固執する姿がうかがえる。また、日常的には教師の指導で語られていたような多数決で多くのことが決められている学級であっても、個人の意見に戻った場合は、さほど変容はみられない。

② 中学校の場合

(a) 指導歴のポイント

中学校の場合は、一定程度多数決原理や少数意見の尊重、倫理的判断基準をすでに指導していることがわかる。Q5 は取り上げていないが、Q1やQ3, Q7 はすでに学ぶ機会を設定しており、Q7 を実態的に学ぶQ9 (多数決を行う機会) も設定している。必ずしも社会科だけとう回答ではないが、特別活動の場を用いながら、一定程度本研究に関わる内容を扱う場面が設定がされている。

(b) 判断基準はどのようなものだったか

ア: ワクチン接種の順番

全体傾向から、以下の点を見ることができる。

当該中学校39名が最終的に1位グループに設定した判断は以下である。

ワクチン製造者, 医師: 39名 (100%)

政府要人: 35名 (89.7%)

警察官: 7名 (17.9%)

2位グループに設定した判断は以下である。

65歳以上: 30名 (76.9%)

葬儀従事者; 18名 (46.2%)

2-64歳: 14名 (35.9%)

乳幼児: 13名 (33.3%)

3位グループに設定した判断は以下である。

妊婦: 28名 (71.8%)

警察官: 26名 (66.7%)

2-64歳, 乳幼児: 25名 (64.1%)

上記から見える傾向としては、ワクチン製造や治安維持に関わる職業(状況を好転させる職種)への接種を望む割合が高いことであろう。しかし、興味深いのは、65歳以上や妊婦, 乳幼児への接種の割合である。それぞれ以下の割合で推移している。

65歳以上 (0%→76.9%→23.1%)

妊婦 (2.6%→25.6%→71.8%)

乳幼児 (2.6%→33.3%→64.1%)

すなわち、当該の状況下では相対的に弱者とみなされやすい立場の人たちは、第1に救うべきグループとはみなされず、高齢者については2番目、妊婦や乳幼児は3番目に設定されていることである。

イ：判断基準

では、上記の決定はどのようになされたのか。全体の傾向としては、第1の判断基準として「国や国民を守るために動く人」「混乱を抑えつつ、ワクチンを作る」といった回答にみられる通り、国をマネジメントする職種や社会の混乱を抑える職種が重視されている。また第3位を選出した基準としては、「未来がない」「助かる可能性の低い人」「代わりの人でも出来る仕事」というように、弱者を軽視する視点や、仕事の代替可能性を重視する視点で判断が行われている。

興味深い傾向としては、中には「よりたくさんの命を救うことを考える」「助かる人を増やさなくてはいけない」「将来の人口を増やす」などの視点もみられることである。

判断基準については、質的調査の結果から少し掘り下げてゆきたい。インタビュー調査の結果を示した表2をご覧ください。例えばE氏は「国を動かす人」という基準で判断を行う。その目的は、「患者を減らす」「感染拡大を防ぐ」ことである。そのために「助かる可能性が低い人」は後回しにする。インタビュー調査を行った12名中8名がほぼ同じ理由を回答する。

また、別の事例としてはL氏も興味深い回答をする。氏は9個の内、7個を第1グループに入れ、第2グループ、第3グループへは各1つつつを入れ込む。これは他の回答者とは異なる傾向である。氏の判断理由は「世界を大きく変える人。未来がある人」である。「街にウイルスが広がらない様にするのが大切」と考え、65歳以上と医師以外を第1グループと設定する。なぜ、医師が最終グループであるのかはわからないが、多くの人を第1グループとしている点で他とは異なる傾向を見せている。

(c) 判断基準をどのように学んできたか

判断基準を学んだ場合は、「哲学者の本やいろい

ろな本」「自然に」「漫画」「(当日の)ビデオ」など様々である。しかしながら、E氏が「自分で考えた。何も授業では学んでいない」と答えた様に、授業で学んだという回答はなかった。D氏は「漫画(インフェクション)で学んだ。トリアージはどこかで聞いたことがある」と答え、J氏が「おじいちゃん=がんで亡くなった。お医者さんから習った」回答した様に、日常経験をベースに答える場合が多く、学校を指摘した4名のうち3名は当日の動画の影響を答えている。

(d) 社会科は判断基準形成にどのように関係しているか

学校(社会科教育)での学びを生かしていると答えた回答はゼロであった。しかし、全体傾向の中では「『助かる可能性』を優先すること」という可能性を軸に判断している生徒や、「よりたくさんの命を救うことを考える」など最大多数の最大幸福を視点にしている生徒、「別の誰かができる仕事」「葬儀従事者は他の人でも可能」という点から市民が警察や他の職務を担うことができる可能性への言及など、一定程度、他の社会科もしくは学校教育の中で学んだことを応用している可能性もありえる。これは、aで取り上げた指導歴ともクロスして検討することができる。しかし、インタビュー調査からは社会科との関係性を直接語回答は無いため、これはさらなる調査が必要である。

(e) 判断基準はクラスメートに影響されて議論の中で変化するか

全体の回答を参照すると、39名中31名は議論の中で意見を変化させており、全く変更が無い生徒は8名だけである。また、インタビュー調査では、11名中全員がクラスメートの議論を参照し、何らかの点で「なるほどと思った」と感じている。しかし、上記の状況にも関わらず、意見が変化したと答えた人数は11名中3名であった。これは、2つの可能性が考えられる。第1は、総論としての思想的な変化を起こすことはなく、各論としての個別的な変化であった可能性、第2はあくまでも日常的・常識的な視点に基づいた意見であることから「変化した」とまでは論じられないという判断である。

しかし、これは本調査だけでは厳密にはわからない。さらなる調査が必要である。

③ 高等学校の場合

(a) 指導歴のポイント

高等学校の場合、「現代社会」の授業において、功利主義や義務論的な考え方を取り扱っており、本授業において、子どもの判断にその学習内容が影響しているかどうかのポイントになった。

(b) 判断基準はどのようなものだったか

同高校の高校生を対象とした21名の「記録用紙」の結果を分析すると、生徒は以下のような判断基準を用いていた（複数回答あり）。

「どんな仕事をしていても人は平等だ等」（平等主義）・・・4人

「多くの人に幸福をもたらすことは重要だ」（功利主義）・・・16人

「家族を構成する人は誰かが欠けると不幸だから平等にする」（家族愛）（平等主義）

「国が混乱することを避けるべきだ」・・・5人

「未来につながる人材かどうか」・・・3人

「所要時間、コストを考え、効率的な方が良い」（効率）

「功利主義」の発想が強く出るのはこれまで我々の調査でも示されてきたところだが、本調査では、功利主義的に判断し、多くの人を救う職業を優先した後で、その他は、全て横並びに判断する「平等主義」が強く出ている点が特徴的である。

(c) 判断基準をどのように学んできたか

前述の判断基準をどのような場面で生徒は学んできたのか。その記述を整理すると次のようなものであった。

「小論文指導」・・・1人

「同和問題の学習」・・・1人

「人生」・・・3人

「現代社会の授業」・・・3人

「学校生活」・・・4人

「テレビのニュース」・・・1人

「本授業中で見たビデオ」・・・1人

「昔読んだ漫画」・・・1人

「自然に身についた・勘」・・・3人

「わからない」・・・2人

「大河ドラマ」・・・1人

本調査では、「生徒会役員の経験から生徒同士を差別的に扱おうと、生徒はやる気をなくす」「リーダーが駄目になると集団も駄目になる」といった理由を述べる生徒がおり、「学校生活」での経験が判断基準を形成しているといった特徴が見られた。他、「現代社会の授業」「小論文指導」「同和問題の学習」といった学習経験も判断基準を形成しているようだ。

(d) 社会科（公民）は判断基準形成にどのように関係しているか

同校で「現代社会」の授業を受けてきた生徒9名について、以下のような判断基準を用いていた。

「どんな仕事をしていても人は平等だ」（平等主義）・・・2人

「多くの人に幸福をもたらすことは重要だ」（功利主義）・・・6人

「家族を構成する人は誰かが欠けると不幸だから平等にする」（家族愛）（平等主義）

「国が混乱することを避けるべきだ」

「未来につながる人材かどうか」

「所要時間、コストを考え、効率的な方が良い」（効率）

他方、「現代社会」の授業をうけていない生徒12名について、以下のような判断基準を用いていた（複数回答あり）。

「多くの人に幸福をもたらすことは重要だ」（功利主義）・・・11人

「人は平等に扱わないといけない」（平等主義）・・・2人

「国が混乱することを避けるべきだ」・・・4人

「未来につながる人材かどうか」・・・2人

「現代社会」の授業を受けたか否かはこの結果からは読み取れない。ただし、「功利主義」「効率」といった概念を使って判断理由を説明していた生徒3名は、「小論文指導」や「現代社会の授業」を受けて学んだと述べている生徒もいて、学習経験が判断に一定程度影響を及ぼしていることは間違いない。

(e) 判断基準はクラスメートに影響されて議論の中で変化するか

「納得ができ考えが変わった」・・・12人

「特に納得できるものはない」・・・2人
 「納得はできないけど、なるほどなあと思った意見はあった」・・・7人

「65歳以上の人はあまり長くないので、他の人を優先させるべき」「一つの家族の中で差が生まれてはいけない」といった意見を踏まえて判断基準を変えている生徒は一定数おり、議論の中で判断基準は変化したものもいた。

(3) 価値判断プロセス・判断基準に関する分析結果

① 大学生への学習歴調査

<パンデミック授業を受けたみなさんに、高校時代の学習内容についてお聞きします。当てはまる記号に○印をしてください。>【大学】n=50

Q1: 多くの人が幸せになることが善いことだ、という考え方を授業で学んだり日常の指導で経験したりしたことがありますか。

- ア 結構ある (17) イ いくらかある (24)
 ウ ない (9)

Q2: Q1で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で学びましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。(複数回答可)

- ア 現代社会 (12) イ 倫理 (13)
 ウ 特別活動 (12)
 エ 総合的な学習の時間 (5)
 オ その他 () (5)

Q3: 少数であっても最も困っている人の状況を良くすることが正しいことだという考え方を授業で学んだり日常の指導で経験したりしたことがありますか。

- ア 結構ある (15) イ いくらかある (26)
 ウ ない (9)

Q4: Q3で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で学びましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。(複数回答可)

- ア 現代社会 (14) イ 倫理 (15)
 ウ 特別活動 (7)
 エ 総合的な学習の時間 (8)
 オ その他 () (2)

Q5: 社会や集団に貢献してきた人を大切にすることが善いことだという考え方を授業で学んだり日常の指導で経験したりしたことがありますか。

- ア 結構ある (11) イ いくらかある (25)
 ウ ない (14)

Q6: Q5で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で学びましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。(複数回答可)

- ア 現代社会 (13) イ 倫理 (6)
 ウ 特別活動 (6)
 エ 総合的な学習の時間 (13)
 オ その他 () (1)

Q7: 多数決のよさについて学んだことありますか。

- ア 結構ある (15) イ いくらかある (28)
 ウ ない (7)

Q8: Q7で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で学びましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。

- ア 現代社会 (24) イ 倫理 (7)
 ウ 特別活動 (5)
 エ 総合的な学習の時間 (10)
 オ その他 () (3)

Q9: 多数決でものごとを決定する機会がありましたか

- ア 結構あった (34)
 イ いくらかあった (12)
 ウ なかった (4)

Q10: Q9で、あなたはイに○をした人にお聞きします。どの授業で多数決を行う機会がありましたか。その他の場合は()に教科名を記入してください。

- ア 現代社会 (6) イ 倫理 (2)
 ウ 特別活動 (26)
 エ 総合的な学習の時間 (18)
 オ その他 () (4)

Q11: 高校で履修した公民科の科目に○印をしてください。

- ア 現代社会 (38) イ 倫理 (22)
 ウ 政治・経済 (22)

(a) 学習歴のポイント (統計データ)

調査対象：教員養成系大学3校の学生50名

価値判断基準の学習歴

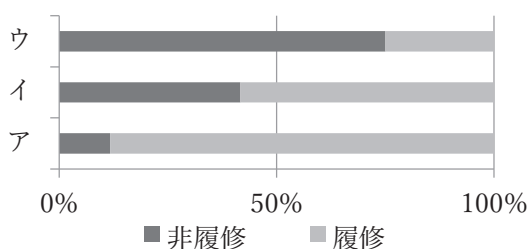
- ・ Q1 「多くの人が幸せになることが善い」
学習歴あり 82%
- ・ Q3 「少数であっても最も困っている人の状況を良くすることが正しい」
学習歴あり 82%
- ・ Q5 「社会や集団に貢献してきた人を大切にすることが善い」
学習歴あり 72%
- ・ Q7 「多数決のよさ」
学習歴あり 86%
- ・ Q9 「多数決でものごとを決定する機会」
学習歴あり 92%

データ分析 1 「公民科履修経験と価値判断基準の学習歴」

Q11: 「高校で履修した公民科の科目 (現代社会, 倫理, 政経)」によって価値判断基準の学習歴に差があるか?

- ・ 「倫理」「政経」の履修の有無と, 上記学習歴のすべてに統計上の有意差なし。
- ・ 「現代社会」の履修の有無と, Q9 「多数決でものごとを決定する機会」のみ有意差あり。

グラフ1 公民履修と多数決機会の関係



$\chi^2(2) = 10.548$, $p < 0.01$
ア多数決の機会が「結構あった」と回答した人は履修者の割合が多く, 非履修者の割合が少ない。
ウ多数決の機会が「なかった」と回答した人は非履修者の割合が多く, 履修者の割合が少ない。

(b) 判断基準はどのようなものだったか

- 1 最大多数の最大幸福 34%
- 2 社会的役割 22%

- 3 短期的な危機の収束 12%
- 4 弱者保護 10%
- 5 国の維持 6%
将来性 6%
生産性 6%
*その他 4%

(c) 判断基準をどのように学んできたか(形成されたか)

- ・ 学校教育 38% → 公民・社会 14%
- ・ 日常生活 34%
- ・ わからない (無回答を含む) 28%

(d) 社会科 (公民) は判断基準形成にどのように関係しているか

分析方法は, 記述分析によって明らかになった(b)における7つの判断基準を, 「集団」, 「功利」, 「福祉」, 「役割」の4つのカテゴリーに再分類し, 公民科の履修科目によって, 判断基準に差があるか分析した。

4つの判断基準のカテゴリー

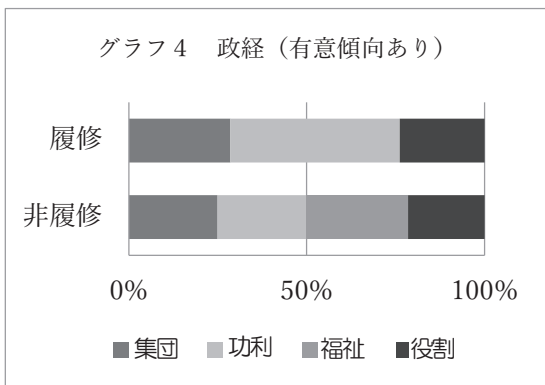
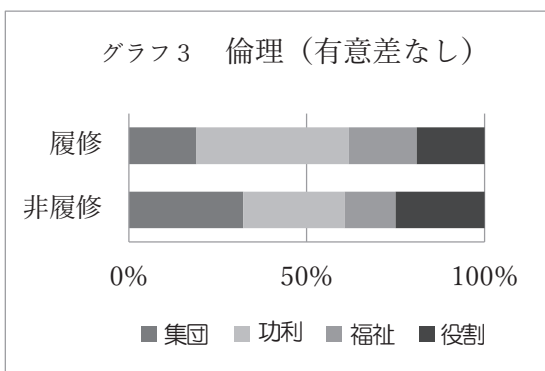
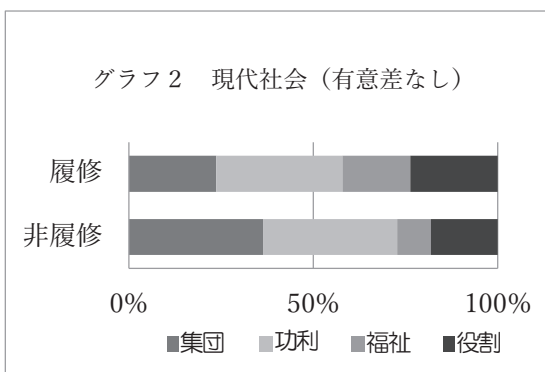
- ・ カテゴリー1 「集団」 24% (短期的な危機の収束 12%, 国の維持 6%, 生産性 6%)
(国家, 社会, 秩序といった集団を維持することを重視した判断)
- ・ カテゴリー2 「功利」 34% (最大多数の最大幸福 34%)
(多数, できるだけ多く, たくさんの命を救うといった功利主義的な判断)
- ・ カテゴリー3 「福祉」 16% (弱者保護 10%, 将来性 6%)
(高齢者, 妊婦, 乳幼児の保護を重視した判断)
- ・ カテゴリー4 「役割」 22% (社会的役割 22%)
(医師, ワクチン製造者, 政府要人, 警察官といった社会的役割を重視した判断)

データ分析 2 「公民科履修経験と判断基準」

Q11: 「高校で履修した公民科の科目 (現代社会, 倫理, 政経)」によって判断基準に差があるか?

- ・ 「倫理」「現代社会」の履修の有無と, 判断基準に統計上の有意差なし。

- ・「政経」の履修の有無と、判断基準に有意傾向あり。



政治経済の履修者には、福祉(乳児や妊婦の「将来性」や「弱者保護」を最優先するカテゴリー)の判断が見られなかった。(有意傾向あり)

(e) 判断基準はクラスメートに影響されて議論の中で変化するか

- ・納得でき考えが変わった 58%
- ・特に納得できるものはない 6%
- ・納得はできないけれど、なるほどと思った意見はあった 30%

データ分析 3 「公民科履修経験と議論による意見変化」

Q11:「高校で履修した公民科の科目(現代社会, 倫理, 政経)」によって、議論による意見変化に差があるか?

- ・「倫理」「現代社会」「政経」の履修の有無と、議論による意見変化に統計上の有意差なし。

② 大学生のデータ分析全体の結論

- A: 高校までの公民科の履修科目の違いは、判断基準の学習歴に、ほぼ影響していない。高校までの公民科の履修科目と判断基準の学習歴の「集団」「功利」「福祉」「役割」すべての項目で統計的に有意差はなく、「現代社会」も1項目を除き、統計的に有意差はない。例外として、「現代社会」の履修の有無と「多数決でものごとを決定する機会」の学習歴に有意差が見られる。
- B: 学生の約3割が、「功利主義(最大多数の最大幸福)」を授業において判断基準の最優先とする。
- C: 学生の約1割が、「弱者保護」を授業において判断基準の最優先する。功利主義、弱者保護、社会への貢献者の尊重、多数決といった判断基準の高校までの学習歴は、すべて7割以上と高い。しかし、授業場面における弱者保護を判断基準として最優先したのは1割程度と低い。
- D: 「政経」の履修の有無と、授業における判断基準の差に有意傾向が見られる。今回の調査では、政経の履修者は、福祉(乳児や妊婦の「将来性」や「弱者保護」を最優先するカテゴリー)に基づく判断がない。「政経」が重視する科学的社会認識(例: 政府の機能, 社会危機におけるガバナンスの重要性)と道徳的価値(例: 高齢者への敬意, 弱者保護)がぶつかる場合、「政経」の履修者は、道徳的価値を最優先しない傾向が見られた。
- E: 「倫理」「現代社会」「政経」の履修の有無と、議論による意見変化に統計上の有意差はない。学生の58%が授業中の議論で意見が変わっているが、公民の履修科目による

差はない。

5 本研究の結論

本研究で実施した授業と教師（授業者）及び児童生徒、学生のインタビュー・アンケート内容を分析するに当たって、研究グループ内で取り上げた検討の枠組みは認知心理学の成果を参考にしており、基本的には次の①から④で構成されている。なお、本研究では、研究分担者による見解を重視し、各自の分析視点を取り入れた報告となっていることを事前に述べておきたい。

- ① 新しい知識の獲得は既有知識に基づいてなされる。したがって教師は、生徒が教室にもち込んでくる不完全な理解や誤概念、素朴理論に注意をはらいながら、生徒たちが既有知識を足場にすることによって、より高度で成熟した理解に到達できるように支援することが重要である。
- ② 初心者の知識は、「核心的で重要な考え」を軸に体制化されたものではない場合が多い。彼らは、適切な公式を探して問題に取り組み、彼らの日常的な直観に合う答えを選びがちである。
- ③ 熟達者の知識は、当該領域に関連する事項や公式の単なる羅列ではなく、その領域についての思考をガイドする概念、すなわち『核心的で重要な考え』を軸に体制化されたものである。
- ④ 熟達者の推論能力や問題解決能力は、知識がよく体制化されているかどうか依存している。

<参考> (『魚は魚』)

『魚は魚』(Lionni, 1970) は陸上で何が起きているのかを知りたいがっている魚の物語である。魚は水中でしか呼吸ができないので、陸上を探索することができない。これに対し、友だちのオタマジャクシは、成長すればカエルとなって陸に上がることができる。ある日、陸の冒険の旅から池に戻ってきたカエルが、陸上で見聞したことを魚に説明する。この本には、カエルの説明を聞いて魚が思い浮かべ

た人間や鳥や牛の絵が示されている。それは、「尾ビレで立って歩く魚の体型をした人間」「翼のある魚の体型をした鳥」「乳房のある魚の体型をした牛」の絵である。つまり、どの絵も魚の体型に少し修正を加えただけなのである。この童話は、既有知識を基礎にして新しい知識を構築することに内在する創造的側面と誤解をもたらす危険性の両面を如実に示している。

(※上記①から④と<参考>は、いずれも米国学術研究推進会議編著／森敏昭・秋田喜代美監訳『授業を変える—認知心理学のさらなる挑戦—』北大路書房 2012 による。)

(1) 価値学習の課題

社会系教科目では、昭和 30 年代に「道徳」が設けられて以降、小学校、中学校社会科においては価値的な内容少なくなり、かつ、価値的な内容の取り扱いについても禁欲的であった。その結果、児童生徒は価値的な問題に対して日常的な経験のなかでの「学び」を基に主観的・恣意的な判断を行ってきたと考えられる。このことは、高等学校、大学において社会倫理の内容を学ぶ機会があった生徒が功利主義や社会契約主義等の観点から判断をしていることとは対照的である。

先の検討の枠組みから考えると、日常的な直観に合う答えを選びがちな「初心者」から、『核心的で重要な考え』に基づいて考える「熟達者」への成長をもたらす取組が不足していると考えられる。

(2) 改革の方向性

前記の課題を踏まえたとき、児童生徒が社会問題に直面した際、価値判断を行うために我々人類が蓄積してきた基準 (= 「核心的で重要な考え」) が複数あること、また、それを自立的に構築する「学び」の機会を設けることが必要となる。

その際、それらの基準 (= 「核心的で重要な考え」) は客観的に存在しているという観点から教授するのではなく、具体的な文脈の中で、自立的に築くことができるよう、教師の適切なア

ドバイスを行うことが必要となる。

—付記—

本稿は科学研究費基盤研究 (B) 「社会系教科目における価値学習の開発研究」 課題番号 15H03507 の研究成果の一部である。

【参考文献】

- ① 戸田山 和久『科学哲学の冒険 サイエンスの目的と方法をさぐる (NHKブックス)』NHK出版 (2005/1/27)
- ② 戸田山 和久『「科学的思考」のレッスン 学校では教えてくれないサイエンス (NHK出版新書)』NHK出版 (2011/11/8)
- ③ Nancy Cartwright , How the Laws of Physics Lie, Oxford University Press, USA (1983/7/7)

謝辞 本調査にご協力いただいた学生の皆様と、データ分析にご協力いただいた岡山県立大学の樟本千里先生 (教育心理学) に、感謝申し上げます。

ⁱ 校種別判断基準の分析に当たって、実際の授業をうけた小、中、高の児童・生徒及び教員から聞き取り調査を実施し、教師と児童生徒の関係性を整理した。

a: 指導歴のポイント

(詳細については表 1 に記載)

b: 判断基準はどのようなものであったか。

c: 判断基準をどのように学んできたか。

d: 社会科は判断基準形成にどのように関係しているか。

e: 判断基準はクラスメートに影響されて議論の中で変化するか。

また、大学生については、大学生へ授業を実施したのち、学習歴を調査し無作為に 50 名を抽出し他統計データとしている。